



## 津波避難困難地区に 複合型津波避難施設が完成

宮崎市婦人防火クラブ連絡協議会  
会長 平田 嗣子



### 1 はじめに

私たちの宮崎市は人口40万人。日本最古の歴史書、古事記、日本書紀にまつわる日本発祥の神話伝説や、巨人、ソフトバンク、オリックスのプロ野球キャンプ、プロゴルフトーナメント、参加者1万人を超える青島太平洋マラソンの開催などで知られる太陽と緑の観光都市です。



宮崎市婦人防火クラブ 地域連絡会発足式

### 2 婦人防火クラブ発足

婦人防火クラブは、日常生活において火気を取り扱う主婦や地域住民の皆さんに防火意識の普及啓発を図り、災害に強いまちづくりに寄与することを目的とする全国規模の団体です。宮崎市には現在6つの団体が活動していますが、団体間の連絡調整を図るため、平成21年に県内ではじめての宮崎市婦人防火クラブ連絡協議会を発足させ、その後、平成25年には県の連絡協議会を結成し活動しております。

### 3 地域に根付いた活動

婦人防火クラブの事務は、宮崎市地域婦人会連絡協議会と事務局を兼ねて、地域に

根付いた活動に取り組んでおります。主な活動としましては、平成22年にリーダー研修を行い、救急蘇生法やAEDの取扱い等について研修し、加えて翌23年からは火災警報器の設置義務化に伴い、その普及啓発に取り組んでいます。

さらに26年からは、宮崎市から市民活動補助金をいただき、「女性がかかわる地域防災」と題して、車いすやリヤカーを使つての、災害時要援護者と在住高齢の援護者による「老々避難」の実践訓練や、専門の先生方による講習会などを開催しています。

当クラブは婦人会と密接な組織なので、むしろそれを生かして、婦人会の事業活動の中で防火意識の啓発につながる事業や、地震、津波に対応した避難訓練など、合同・連携した事業の展開を図るよう工夫をしています。



ロープワーク等の実践訓練

### 4 外所地震

ところで、表題の複合型津波避難施設が建設されたのは、私の地元、木花地区です。この木花地区には1662年の外所地震の記憶が今も語り継がれています。今から354年前の大地震の津波被害で外所村という集落が村ごと水没したのが木花の島山地区の辺りで、この地域では、1712年の初代供養碑建立以来、50年ごとに、先代の碑を残しな

から、新たな碑を並べて建立していく、全国にもめずらしいとされる、7基の供養碑が建ち並び、今もその教訓を後世に伝えています。

供養碑には、「寛文2年（1662年）9月19日夜半、日向灘沖を震源とした地震が津波を伴い日向灘一帯を襲った。当時の外所地区は、青島と並んで東に突き出した所に存在したが寺と共に一夜のうちに海に没した。ここに自然の営みに対する畏敬の念を持つと共に、この地震で犠牲となった諸々を供養するため、その日から50年ごとに碑を建て法要が営まれて来た。」と記されています。



木花地区にある外所石碑

## 5 複合型津波避難施設の完成

この古来からの津波避難困難地区に複合型津波避難施設を建設していただいたのは、地域住民の熱心な活動の賜物でした。平成28年3月の完成までには、地元議員に市議会の一般質問で取り上げていただくなどして、必要性を訴えてまいりました。東海・東南海・南海の、いわゆる南海トラフ巨大地震がいつ起きてもおかしくないと言われる中、この「とんどころ村」、木花の島山地区に、1階が消防団車庫と集会室等を備えた防災研修フロア、2階が災害想定資機材等の倉庫、3階が屋内避難所と備蓄倉庫、屋上

が長距離型防災無線の屋外拡声子局を設置した一時避難場所で、3階建て、屋上まで12m、収容人員400人の複合型津波避難施設が完成したのです。宮崎市をはじめ関係者には大変感謝しています。



島山地区複合型避難施設

## 6 おわりに

宮崎市では特に南海トラフ巨大地震への対応に熱心に取り組んでいただき、日向灘を臨んで南北に走る海岸線沿いの避難困難地区に当施設の他にも津波避難タワーや高台の避難所、避難通路の整備が進んでいます。

ただ、今は南海トラフ関連の話題がどうしても先行しますが、防火防災全般に共通する一番の基本は、やはり「日常生活の中に築かれた心の備え」だと思います。

今後とも、女性の優しい感性と柔らかな持久力を生かした防火クラブの活動を少しでも充実させていければと願っています。

